

大きく変わる学校

「自立と相互理解」の共学教育

青山学院横浜英和中学校



青山学院横浜英和中学高等学校は1880年にH.G.ブリテンによって創立されたキリスト教主義の学校で、1916年に横浜英和女学校として現在の蒔田に移転しました。第二次大戦中、当時の社会情勢から成美学園に改称しましたが、1996年に「横浜英和」に戻し、横浜英和女学院になりました。2014年、キリスト教主義教育の一層の発展を図って青山学院大学と系属校関係を締結、女子校から共学化する準備に入り、いよいよ2018年度の新入生から、共学の「青学英和」として新たなスタートを切ることになりました。

1. 「自立と相互理解」

男女が、共に重要な役割を果たす多様な世界で、それぞれが自尊心をもち、共感性をもって協働して生きていくための教育を行っていきます。青学英和は21世紀の新たな学びの場です。教室や授業の中で一緒に学ぶ機会を通して、従来のジェンダーのステレオタイプに縛られず、健康で積極的な態度で自己を表現し、相互理解を深め、今後彼らが活躍する社会やコミュニティで必要とされる社会的スキルを身に付けていきます。

2. “global person with 3 I’s”

青学英和の生徒像は“global person with 3 I’s”です。3つのIは、知性(intelligence)、品性(integrity)、国際性(international mind)で、多様性を受け入れ、様々な人々を理解し、共に歩んでいける3つのIを兼ね備えた国際人(global person)です。青学英和は、海外の各校と20年以上にわたり顔の見える連携を行ってきました。姉妹校はオーストラリアに2校、アメリカと韓国に1校あって、海外研修、短期留学、受け入れプログラムなどで活発な交流を行い、生徒は今までもグローバルな思考や行動を習得してきました。提携校もオーストラリアに2校、ニュージーランドに1校あって、ターム留学も可能です。学内には多くの帰国生も在籍、男女にかかわらず生徒全員が、

自然にグローバルマインドを身に着ける環境です。今後、さらに充実、発展させて、「世界が私の働き場」と考え、人々と社会に貢献し、喜びと希望をもってたくましく生き抜く人格を育てていきます。

3. 青山学院大学との連携

青山学院大学の渋谷、相模原両キャンパス訪問や大学主催の「高校生国際交流の集い」への参加、大学教授陣による学問入門講座や模擬授業、進学・就職センターによるキャリアガイダンスなど、生徒本人のキャリア意識の醸成につながるプログラムがすでに始まっています。青山学院大学との連携をさらに発展させ、本校の教育活動に生かしていきます。

4. 大学進学について

青山学院大学へは、高校3年間の学業成績と試験の結果、その他人物評価等大学が定めた進学基準をクリアすれば、希望者は全員推薦で入学できます。また、今までも毎年国公立大学や早慶などに合格者を輩出してきました。医学部医学科をはじめ、芸術系などの青山学院大学にない学部・学科を希望する生徒もいるでしょう。生徒本人の希望の実現に向けて充実した進路指導を今後も展開します。

5. 2018年度入試について

選考は学科と面接で行われ、A2/1午前4科、B2/2午後4科、C2/3午後4科、帰国2/1午前2科です。

大きく変わる学校

答えのない時代に備える新コース

駒込中学校



駒込中学・高等学校は1682年創立の天台宗の学校「勸学講院」がその源流で、1926年、宗門外からの生徒も加えて普通教育を実施する「駒込中学校」になりました。戦後は男子校から男女別学を経て1966年には共学化します。中学はイングリッシュコースを含むスーパーアドバンスとアドバンスのコース制でしたが、2018年度から「国際先進」「本科(AGS)」の新たな2コース制になります。

1. コース改編の狙い

今の受験生は、これから人工知能(AI)の発達とともに、非常に変化の激しい世の中を歩んで行かなくてはなりません。何が正しくて何が最善か。どうすれば人は幸せに暮らせるのか…。立場や見方、状況がほんの少し違うだけで、確かなことも確かでなくなるような不確実な『答えのない時代』です。こうした時代に対応するには、自分でしっかり考え、そしてそれを発信することが大切です。この力をきちんと身に着けて伸ばすためにコースの改編に取り組むことになりました。

2. 国際先進コース

数理探究とグローバル教育を一体化した文理融合型のコースで、主体的・対話的に深い学びを実現し、プレゼンテーション能力を向上すること、アクティブラーニングの視点から新しい学習過程を実現すること、グローバル世界の探求や理数探究といった、専門的で能動的な学習態度を育成することが目標のコースです。海外語学研修のほか、数多くの理科実験などを通してSTEM(Science・科学, Technology・技術, Engineering・工学, Mathematics・数学)教育や、「ニュース時事能力検定」、「世界遺産検定」等の資格取得でレベルな基礎学力とキャリア意識の醸成に努めます。高校進級時には希望によって「国際教養コース」または「理系先進コース」に進み、海外留学にも積極的にチャレンジします。同時に、海外大学で主流化している

「ポートフォリオ入試」に対応できる人材の養成を行っていきます。

3. 本科(AGS)コース

AGSはアカデミック・グローバル・スタディの略です。「なりたい自分を見つめるキャリア教育」を实践、積極的に能動的な学習へ参加、問題発見・解決学習、体験学習、フィールドワーク、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を幅広く導入したアクティブラーニングを行うことで、「思考力・判断力・表現力・主体性」を大きく育み、知育に連動した能動的で主体的な学力を伸ばしていきます。通常の教科の学習では、進学校として高2までに中高6カ年の内容を終了し、高3は大学進学対策に集中するカリキュラムを実施、GMARCHをベースとした難関国公立私大の合格を目指すほか、生徒の個性・希望に合わせて藝大、音大、美大、体育大等の多様で幅広い進路保障も図っていきます。来るべき「AI(人工知能)時代、IoT(Internet of Things = あらゆるものが接続されたインターネット)時代」に対応できる視野の広さとスキルを持った「21世紀型のリーダー」を育成していきます。

4. 2018年度入試について

1回2/1午前2科or4科or2科+英、2回2/1午後4科or2科+英or適性、3回2/2午前2科or4科or2科+英、4回2/4午前2科or4科、各回とも国際先進・本科の2コース別定員募集の予定です。

大きく変わる学校

3つの「i」で共学化

文化学園大学杉並中学校



文化学園大学杉並中学高等学校は、1926年に城右高等女学校として創立され、1974年に文化女子大学の附属高校となり、1986年には中高一貫教育を開始しました。2011年、大学の共学化で現校名に変更、2015年には全国初めて日本とカナダの両方の高校卒業資格がとれる「ダブルディプロマコース」を開設しています。このコースが注目され、男子生徒からの問い合わせも出てきたことから、2018年から、全面的に共学化することになりました。

1. 文杉 i(アイ)プロジェクト

2020年から大学入試改革がスタートします。新しいテストで求められる3つの「i」(impressive, intelligent, international)をキーワードに、男女が共働して「新・学力」を培う世界標準対応のプログラムを実施します。

2. impressive 感動的な

生徒一人ひとりの進路は違っても「協働する力」や「問題解決の力」、「他者に発信していく力」といった「新・学力」はこれからの時代に必須のスキルです。修学旅行は発信型の「i-たび」、学園祭も発信祭の「B-フェスタ」で感動と共感を発信しますが、こうした特別の行事に限らず、ICTを駆使したアクティブラーニング型授業を展開、プレゼンやレポートを日常的に行っていくことで、変わりゆく時代の荒波の中でも活躍できる、変化に強い人間、いつでもどこでも輝ける人を育成します。

3. intelligent 知的な

「新・学力」は、ともすればプレゼンやレポート作成など、能動的な側面ばかりが強調されますが、生徒一人ひとりにしっかりした知識、技能があってこそ質的に高いものになります。週4回の外部予備校講習を毎日に拡大するほか、MIRAI館に新しく2つの自習ルームを設置、大学受験に備えた徹底的な演習だけでなく、日常的な学習量の確保に、こ

うした施設を活用します。特に部活動に熱心に取り組む生徒には、家庭学習時間が確保しにくい事例も見られますが、部活動後も自習室を徹底活用し、自宅学習時間が「ゼロ」でも高い学力が維持できるよう、学校でフォローアップを行います。

4. international 国際的な

全コース・英語の全授業で4技能(聞く・話す・読む・書く)の伸長を図り、GTECなどの英語資格試験対策を徹底します。特に海外大学進学を第一に考えるダブルディプロマコースは、数学や理科なども英語で授業を行うことから、中2からコースを設置し、希望者には高校段階での本格的な英語授業に対応する力を中3までに育成します。

5. 新コース制

従来は難進グローバルとシグネットの2コース制でしたが、来春から入学当初は単一コースとしてじっくり基礎学力を養い、中2からダブルディプロマ(海外大学目標)と一貫の2コース、高校からは一貫コースをさらに特進(国公立、早慶上理、ICU目標)と進学(日東駒専レベル以上、文化学園系列)に分けるコース制とします。

6. 2018年度入試について

1回2/1午前、2回2/1午後、3回2/2午前、4回2/2午後は2科4科選択、適性検査型を別途2/1午前、2/2午前に実施予定、他に算数入試を検討中です。

大きく変わる学校

次世代のグローバルリーダーの育成

八雲学園中学校



八雲学園中学校高等学校は1938年に創立されました。終戦間もない1946年にはGHQ高官の婦人を招いて英会話の授業を始めるなど、早い時期から英語力強化に取り組み、1982年には海外研修旅行を開始、1994年にはアメリカ・サンタバーバラに海外研修センター「八雲レジデンス」を建設するなど、実践的な英語教育環境をいち早く確立した学校です。長い間女子校でしたが、次世代のグローバルリーダーの育成を目指して2018年度から共学化します。

1. 「ナイト(騎士)の精神」

次世代のグローバルリーダーには英語力だけでなく、誠実さと奉仕、弱者に対する思いやりの精神が必要です。八雲学園は女子生徒にこの精神を培う教育を実践してきました。男子では「ナイト(騎士)の精神」と言えるでしょう。男女が互いに理解し、協働する習慣を早くから培っていきます。そのため、「グローバル教育」「文化体験」「進路指導」「チューター(学習アドバイザー)」の4つを柱とする教育を実践します。

2. グローバル教育

中3では全員が2週間、八雲レジデンスを拠点に研修を実施します。UCSB(カリフォルニア大学サンタバーバラ校)での授業を中心に、姉妹校のケイトスクールや地元の学校との交流も深めます。高1での9カ月プログラムに加え、高1~高2で1年間留学プログラムを新設、さらにラウンドスクエア(国際的な私立学校連盟)に加盟していることから、学校間の交流で各国の生徒たちとグループディスカッションや野外活動、奉仕活動なども行っていきます。こうした取り組みでCEFR(世界的な言語習得水準の指標)のレベルC1(英検1級相当)を目指します。

3. 文化体験

上記の取り組みだけでなく、月に1度文化体験の日を設け、美術鑑賞、ミュージカル、映画鑑賞をはじめ、さまざまな場所に出かけて文化や歴史を探究します。

日本だけでなく、世界の多様な文化に触れ、体験を重ねることで感性を磨きます。

4. 進路指導(3ステージ制の導入)

中1・中2は基礎学力の蓄積の徹底とともに調べ学習・アクティブラーニングを多用してプレゼンテーション能力の育成に努めます。中3・高1では上記のグローバル体験で国際感覚を磨き、将来の進路にむけての意識を高め、さらに論文作成・読解を通してプレゼンテーション能力の一層の向上を図ります。高2・高3では特別進学プログラムで徹底した大学受験演習とともに、これまで培ってきたプレゼンテーション能力・思考力・判断力で多様な入試形態に対応します。こうした取り組みで海外大学・国立大学・早慶上理への進学を実現します。

5. チューター(学習アドバイザー)のサポート

いろいろなプログラムを生徒一人ひとりがうまく身に着けられるよう、中学3年間はクラス担任とは別の教員が、学習アドバイザーとして個別に対応します。学習面でのアドバイスを中心に、日常生活の悩みや不安などの相談相手にもなります。

6. 2018年度入試について

1回2/1午前、2回2/1午後、3回2/2午前、4回2/2午後、すべて2科4科選択、別途未来発見入試2/5午前、国・算・英から1科+自己表現文です。

また、新たに帰国生入試を実施します。12/13午前、英語または国語・算数・面接を行ないます。

大きく変わる学校

CLIL導入の国際教養クラス新設

横浜女学院中学校



横浜女学院は、1866年創立の横浜千歳女子商業学校と1940年創立の神奈川女子商業学校が1947年に合併して誕生しました。どちらの学校とも異なる新しい教育の柱として「日本人による日本人のためのキリスト教教育」を据えています。英語教育に力を入れるとともに、国公立大進学対応カリキュラムなどで生徒一人ひとりの進路実現を図っていますが、その根底にあるのは「社会に貢献する真のリーダーとなるための学び」です。2018年度から「国際教養クラス」を新設、2コース制とするほか、授業時間数の増大などの教育改革に取り組むことになりました。

1. 新たなコース制

国際教養クラスを新設、在来の特進・普通クラスは「アカデミッククラス」として、従来からの特進クラスのカリキュラムをさらに発展させて実施します。また、現在は授業週5日制ですが週6日制とし、45分授業を平日は7時限、土曜日は3時限実施。100分授業も視野に入れ、実験や実習等を充実させていきます。

2. 国際教養クラスの概要

国際教養クラスの特徴は高度な英語運用能力の育成で、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を実践します。「知識を英語で習得できる学習能力」「物事を英語で考察できる批判的言語能力」「他人と英語で協働できる協調的言語能力」「任務を英語で遂行できる機能的言語能力」を身に着けます。従来から実施していた中3でのニュージーランドセミナーのほか、高1でのアメリカ留学も計画しています。英語ばかりでなく、他教科も時間数を増やし、海外大学や、国内なら国際教養大やAPU (立命館アジア太平洋大) といった、海外並みの教育で定評のある大学につながる教育を実施します。

3. アカデミッククラスはさらにパワーアップ

アカデミッククラスも各教科の授業時間を拡大、国際教養クラスほどではありませんが、習熟度に応じて、日本語を交えながらソフトなCLILを実施し

ていきます。従来通りニュージーランドセミナーも実施するほか、国際教養クラスとともに模擬国連にも引き続いて参加していきます。また、英語ばかりでなく理系の実力アップにも今まで以上に取り組み、今後も数学甲子園や科学オリンピックなど、学校の枠を超えて力を発揮する場に挑戦を続けていきます。

4. ESDは教育の柱

キリスト教主義の学校の基本姿勢として、日々の学びを自分のためと捉えるだけでなく、よりよき社会のため、社会に貢献する真のリーダーとなるための学びと位置付けています。そのため、国際教養・アカデミーの両クラスともESD (Education for Sustainable Development) を、これからの社会に必要な「身に着けるべき力」と考えています。ESDは「持続可能な社会の発展のための価値観」「体系的な思考力」「代替案の思考力」「データ情報の分析能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」の6つの力の育成です。

5. 2018年度入試について

A2/1 午前、B2/1 午後、C2/2 午前、D2/2 午後、E2/3 午後各国際教養・アカデミー両クラス募集、全回2科4科or 英国or 算英、国際教養クラスは、4科または英国or 算英から選択。英語は英検準2級レベルの音読、口頭試問